

令和2年度第2回子ども・子育て会議結果（書面開催）

■書面開催通知日 令和3年1月26日

■議題

保育園、認定こども園の利用定員（案）について

■その他

- (1) 民間保育園の認定こども園への移行について
- (2) 安城市子ども・子育て会議委員について

■結果

委員からの主な意見及び回答

主な意見	回答・取組方針
保育士の途中退職、休職に対する対策ができていれば、より安心できると思います。	途中退職、休職につきましては、随時、会計年度任用職員を採用し、対応しています。
引き続き、低年齢児の受け入れ拡充の対応を希望します。	資料1-1でご説明しましたとおり、低年齢児保育室の改修工事による受入人数の増加及び民間園誘致等により拡充を図ります。
資料1-3の数字を比較すると、入園率の高い園よりも低い園の方が、人数が多い園もあります。園児にとっての過ごしやすさなど、環境に差はないのかと感じました。	安城市は統一のカリキュラムをもとに教育・保育を進めています。入園人数の違いはありますが、子どもにとって園が学びの場となるよう今後も進めてまいります。
住宅開発などにより子育て世代が増える地域もあります。そのような地域では、これまでと同じ保育環境では賄えないため、ピンポイントにその地域に合った定員設定が出来たらすばらしいと思いました。	運営方針において中学校区毎に保育が必要な人数を想定し、子育て世代の継続的な増加が見込まれる東山地区及び桜井地区につきましては、民間園誘致を進め、受入人数の拡充を図ります。短期的な保育需要の増加には、必ずしも対応できるものではありませんが、今後も適切な定員管理に努めます。

主な意見	回答・取組方針
<p>2号認定の設定人数が多い所は少ない印象です。子ども園で乳児枠の需要に応えられない面もあるので、まだ課題はあると感じました。</p>	<p>事業団こども園の1号認定・2号認定の定員設定につきましては、もともと幼稚園であったことを踏まえ、現在は1号認定が多い設定となっています。今後、需要に合わせて柔軟に対応していきたいと考えています。低年齢児の受け入れにつきましては、民間園誘致等により拡充を図ります。</p>
<p>長年の保育全体の課題だと思いますが、建物の物理的な支援だけでは成り立たないので、保育業全体の給料の底上げによりマンパワーを充実させることが最重要だと思います。保育者の確保で、定員設定にも柔軟に対応することも大事だと思います。</p>	<p>保育の重要性が認められている今日、そのニーズに合わせ、保育者の雇用を進めていきたいと考えています。保育者のワークライフバランスに配慮した働きやすい職場、環境づくりに努めるとともに、随時募集を行い、保育ニーズに対応していけるよう進めてまいります。</p>